

欧米へ観光旅行に行くより、同じアジアを見ておかなければ…と思ってはいても、実現させずにいました。

以前からセカンドハンドのお店を時々利用させて頂くぐらいでしたが、1～2年前、友達に誘われて、医療研修を終えたカンボジアの人達の送別会に参加した時、初めてボランティア（スカラーペアレント）を知りました。

今回、セカンドハンドさんが数ヶ所ある候補の中から、どの施設を支援するか選ぶ際に、街に近くて比較的便利で、目立つ所にある施設を選べば、色々楽だし、建物に表示される支援団体名も、多くの人の目にふれ、名前を知ってもらえるけれどそんな事より、どこがより必要とされているか、急がれているかだけを考え、とても辺鄙で、後回しにされそうな国境近くのオートックビル小学校を建て直すというプロジェクトに参加することを決められたとか。それだけでもセカンドハンドさんの純粋な熱い思いが伝わってきました。

いよいよオートックビル小学校の竣工式の日。

朝7時すぎにバタンバンのホテルを出発し、車で3時間。

途中からは舗装されてなく、雨期にできた大きな深いわだちが続く道路を、まるで大きなうねりの海をゆっくり進むように30分ゆられてようやく到着。意外に涼しい風が周りの大木の枝やバナナの大きな葉をゆらしていました。大勢の人達が集まり、暑い中早くから待っていたようでした。

他の支援団体も到着して、子供達が作った列の中を拍手を受けながら入場して式が始まり、来賓の方の挨拶では子供達に「この新しい学校を利用して、一生懸命勉強して夢をかなえ、カンボジアを豊かな国にして下さい。この学校をみんなできれいにして、大切に次の世代に引き継いでください。」と言っていたのが印象的でした。

バタンバン州の副知事さんは、守って欲しい事をいくつか述べられ、その1つに

「ドラッグに手を出さないように。」と話されました。小学生にまで、その危険が及ぶ事があるのかと驚きました。

式が終って校舎を見学後、にぎやかな子供の声につられて外に出ると、子供達は自分の方からはずかしそうに、にっこりしてきて、こちらもにっこりすると嬉しそうに、さらににこにこしてくれるのです。

スタッフの方が持って来ていた紙風船を受け取って、ふくらませて1~2回ポンポンとついて見せました。すぐさま1人の活発そうな子が続けてくれましたが、みんなで遊べるよと伝えたくて、少し離れた子に向かって打ち上げるとそこから10人位の紙風船つきが始まります。

校舎のテラスに5~6人の女の子が輪になって座り、何かしているのぞくと、2~3cmの石ころ数個で、なんとお手玉を楽しそうにしていました。

竣工報告書の中に、26才の若い校長先生の文章がありました。「何よりも嬉しいのは、これから子供達は新しい校舎で、以前のように雨や暑さ、強い日差しに悩まされる事なく勉強できることです。そして、雨の多い季節に授業を中断することもなくなるので、毎日授業時間いっぱい勉強することができるようになります。」